

取り組み事例紹介

令和2年度取引力強化推進事業実施組合より

『南勢志摩さとうきびのブランド力向上とさとうきびの収穫体験及び志摩市への観光集客を目指すPR用パンフレット作成事業』



実施組合 南勢志摩さとうきび振興企業組合

事業概要 当組合は、温帯地方に分類される伊勢志摩地域において、休耕地を活用し、この地域の海岸に打ち上げられる海藻を肥料とする栽培方法により、農薬や化学肥料に頼らない安心・安全な南勢志摩さとうきびを栽培しています。南勢志摩さとうきびを県内外の方々に知ってもらい、ブランド力向上と販路拡大及び収穫体験、観光農園の実施

につなげるため、事業を活用してパンフレット1,000枚を作成しました。

令和2年12月に開催したさとうきびの収穫体験では、参加者にパンフレットを配布し、参加者の口コミによる周知を依頼するとともに、志摩市商工会、鳥羽市観光協会、鳥羽1番街協同組合等の志摩市、鳥羽市内のほか、三重県庁や三重県旅館ホテル生活衛生同業組合等、更に、県外においては三重県東京事務所及び東京日本橋にある三重県のアンテナショップ「三重テラス」等に対し、パンフレットの配布・陳列による「南勢志摩さとうきび」のPRについて協力を依頼しました。

成果等 パンフレット作成に際し、組合員のさとうきび栽培に対するモチベーションの向上と組合員の協力体制強化に繋がり、また、県内外にパンフレットの配架を依頼したことで、「南勢志摩さとうきび」のPRに効果を得ることができました。



ご紹介します!

全国の先進組合

愛知県 TENT・シート工業組合

● 新型コロナウイルスと戦う医療現場への防護ガウンの供給を通じたエールを!

■ 背景・目的

2020年ごろから、新型コロナウイルス感染症により、世界全体が未曾有の危機に見舞われ、死亡者数が増加し、医療崩壊寸前の状況で、患者を救うため自らの感染の危険を顧みず、未知のウイルスと必死に戦う医療従事者の姿が連日報道されていました。

■ 取組みの手法と内容

懸命に患者を治療する医療現場の状況が報道される中、不足する医療用防護ガウンの代用品として、医療従事者がゴミ袋をはさみで切って加工し、テープでつなぎ合わせて使用している凄惨な状況を知った組合員の中から、医療従事者のために組合として何か出来ないかと声があがり、話し合いの末、TENT・シートの製造技術を転用して医療用防護ガウンの試作を企画しました。

緊急事態宣言が発令され、サプライチェーンが停止状態にある中で、日頃から社会貢献意識の高い組合員数社が、地域医療の崩壊防止と地域社会への貢献、SDGs17の目標のうち「貧困をなくそう」「全ての人に健康と福祉」を目的に結集し、協力体制を構築しました。



日々深刻化する医療現場へいち早く届

けるため、組合員企業で受け入れている学生インターンを通じ、医療機関に対して希望する医療用防護ガウンの素材や品質、仕様等の聞き取り調査を行い、その後、外部の協力企業から原材料の供給を受けつつ、生産設備を導入し、既存設備及び技術転用による改良を行いました。品質・生産量・納期等の厳しい制約がある中、試行錯誤しながら製品化に成功し、4月下旬には量産体制の準備に入ることができました。

また、防災協定を締結した愛知県の協力の下、取り壊し予定の閉鎖施設を特別に借り受け量産現場とし、営業自粛の影響でアルバイト・パート収入が減少又は断たれた学生や主婦を中心とした有償ボランティアと、組合員の協力の中、感染防止策を徹底した上で、5月1日より量産を開始しました。

また、防災協定を締結した愛知県の協力の下、取り壊し予定の閉鎖施設を特別に借り受け量産現場とし、営業自粛の影響でアルバイト・パート収入が減少又は断たれた学生や主婦を中心とした有償ボランティアと、組合員の協力の中、感染防止策を徹底した上で、5月1日より量産を開始しました。

■ 成果とその要因

取り壊し予定の閉鎖施設の貸与期限が迫る6月下旬までに月間の生産量10万枚以上を目標に設定し、集中的に生産工程を合理化するなどの改善を繰り返し、量産を行った結果、5月下旬には10万枚の生産を達成しました。6月中旬には合計12万枚の生産が完了し、既に防災協定を締結していた愛知県及び名古屋市を通じて県内の医療機関へ納入することができました。

